



FUTUERDESIGN 2008 未来エレベーターコンテスト

2030

22年後の2030年、世の中はどのようになっているだろうか・・・。

車、電車、飛行機などの交通機関は安全策を講じながら高速化し、今以上に目的地への時間が短縮されるだろう。

パソコンや携帯電話は現在とは比べ物にならないほど多機能化してマウスもキーボードもない類々なマルチメディアツールで情報を管理しているかもしれない。

しかし、どんなに交通機関やコンピュータが高速化しても人々はビルを飲みながら第24回 FIFA World Cupに熱狂し、友人と海外旅行を楽しみ、春には花見で宴会、夏には海へ行ったり、山でキャンプをして楽しんでいることだろう。

モノ・コトのスピード化に比べて人間の感情や身体感覚はそんなに急激な変化はとけないだろう。

エレベーターもあらゆるテクノロジーに変えられながら安全性を高め、更なる高速化が進んでいるはずである。

しかし、そんな世の中にフラフラとんびりと移動する装置があってもいいかもしれない・・・。

Concept

建築技術の向上により、建築デザインも多様化し、多種多様な豊かな空間を生み出している。

空間を移動する手段として
垂直：エレベーター
斜め：エスカレーター
水平：動く歩道
などが上げられ、そのデザインも同様のものが見られてはいるが、あくまでも出発点と到達点を繋ぐ「移動のための手段」としての役割が大きい。

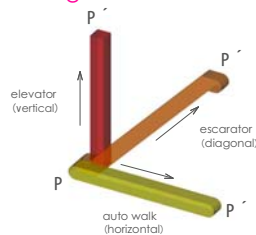
2030年にはテクノロジーとデザインが融合した移動装置が、より生活を豊かにしてくれるのではないだろうか。

建築や都市に根付き、出発点と到達点をフラフラ・ふわふわと自由に移動する、乗って楽しい、見て楽しい、乗ること、見ることが目的となるようなそんな移動空間を提案する。

√F (ルートエフ)

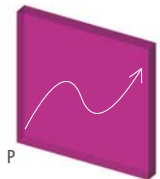
Free/Flat/Face/Flex/Fun/FuraFura/FuwaFuwa/Flower

Diagram



Straight line

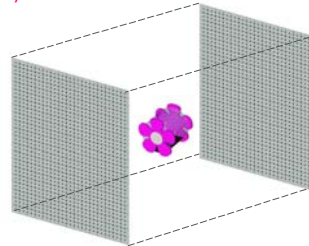
エレベーター、エスカレーター、動く歩道など出発点(P)と到達点(P')は垂直、斜め、水平と、ベクトル方向の違いこそあれ、その動き方は直線である。



Free

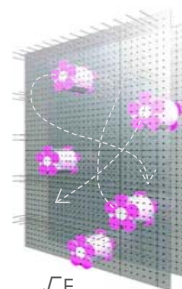
移動装置を面で構成することにより出発点(P)と到達点(P')は任意の経路を取り、自由自在に動くことが可能となる。

System



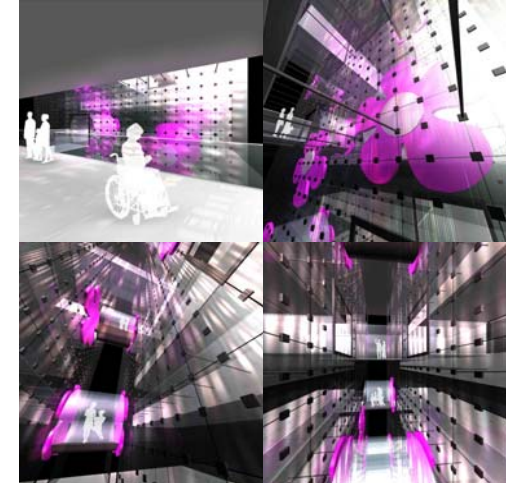
Electromagnet Panel + Gondola

移動システムは電磁石パネルとゴンドラにより構成される。2枚の電磁石パネルにはさまれたゴンドラはパネルの固定電磁石と移動電磁石の磁気変化によって推進力を得る。



√F

ゴンドラはパネルの間をふわふわと自由に滑り、のんびりとゆるやかに移動する。



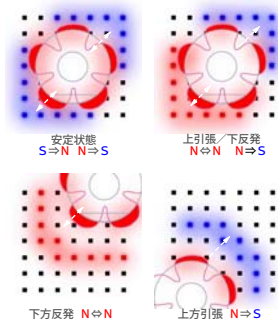
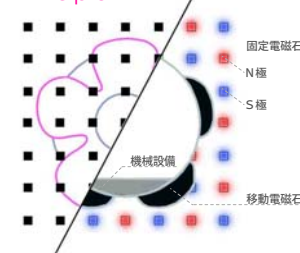
19:28, Monday, 28 October 2030

建築のファサードに√Fを設置することによって、街の表情に彩りを与える。

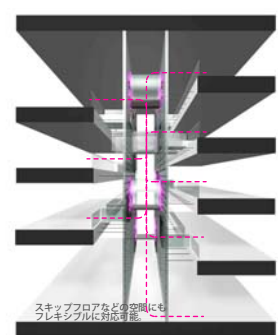
√Fでファサードが構成されれば、ふわふわと街の散歩が出来るようになる。

そのファサードが賑わえば、都市の新しい交通手段となる。

Principle



Section



スキップフロアなどの空間にもフレキシブルに対応可能。

